

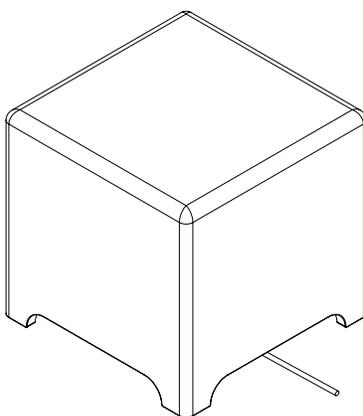


SONANCE®

HARDSCAPE SUBWOOFER

取扱説明書

HS12T SUB

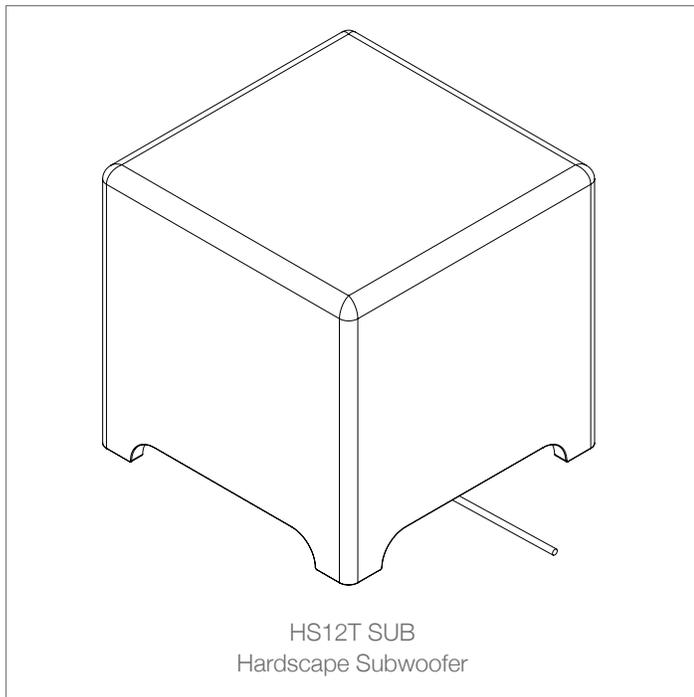


はじめに

この度はSLSサブウーファーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このサブウーファーは、正しく設置することで、長年にわたり屋外でのエンターテインメントをお楽しみいただけます。新しいサブウーファーを最大限に活用するために、取り付けを開始する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

箱の内容

- (1) 地中埋設型サブウーファー
- (2) シリコン充填ワイヤーネット

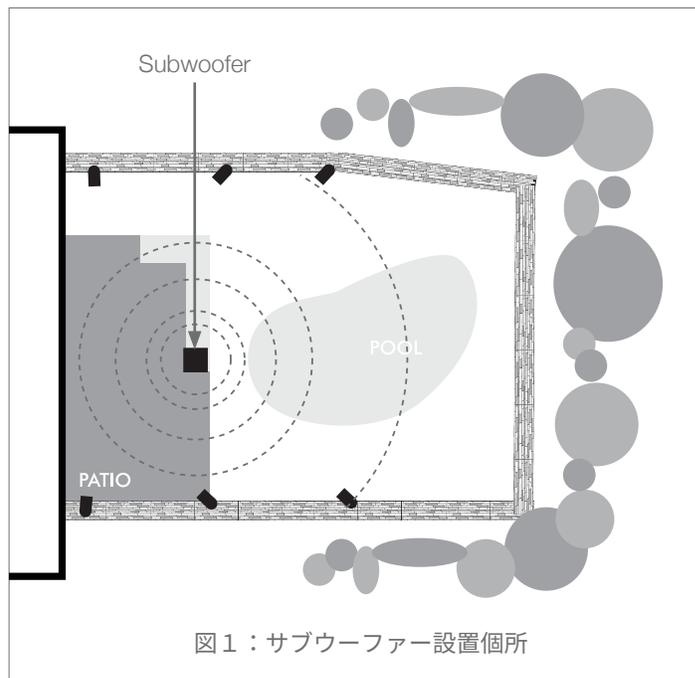


サブウーファーの設置

SLSシステムは、シームレスで均等に分散した音場を屋外環境で実現するように設計されています。複数のサテライトスピーカーとサブウーファーのレイアウトを戦略的に配置することで、屋外のエンターテインメントエリアを移動する際の「ホットスポット」や「ブランクエリア」を最小限に抑えることができます。

注：一般的なガイドラインとして、(1)サブウーファーはリスニングエリアの約610平方メートルをカバーします。

図1は、SLSがエンターテインメントエリアの外周に沿って配置されている様子を示しています。サブウーファーを1台のみ使用する場合は、中央の場所を選んでください（図1参照）。複数のサブウーファーを使用する場合は、メインのリスニングエリアから等距離の場所を選んでください。SLSサブウーファーは、4~5台のサテライトが連なった後に1台設置することをお勧めします。



調節可能なタップ

このSonance Landscapeシリーズは、広帯域幅のSonance Laminated Core Transformer (SLCT)を搭載しており、タップを調整することで、70V/100Vまたは8Ω用にシステムを構成することができます。

SLS製品を8Ωで使用する場合は、タップスイッチが8Ω設定になっていることを確認してください。

この製品を70V/100Vシステムで使用する場合はタップが70V/100V設定のいずれかになっていることを確認してください。

注意：アンプへのダメージを避けるため、1台のアンプで70V/100V設定の製品と8Ω設定の製品を組み合わせないでください。

S70V/100Vのシステム・デザインによっては、庭園の異なるエリアで高い出力と低い出力のバリエーションが必要になります。SLCTのアジャスタブル・タップは、各サテライトやサブウーファーを個別に希望の出力に調整することができます。タップの設定を調整すると、ワット数の計算に影響します。

注意：本製品はSLCT調整可能タップが300Wに設定された状態で出荷されます。すべてのサテライトとサブウーファーを接続した後、適切な出力レベルになるようにタップスイッチで調整することができます。

アンプ・パワー・プランニング

システムで使用できるサテライトとサブウーファーの最大数は、アンプのパワーによって異なります。インストールを始める前に、必要なアンプパワーを計算することが重要です。大規模な設置では、複数のアンプが必要になる場合があります。

サブウーファースの配線と設置

Sonance Landscapeシリーズ・システムでは、スピーカーをデジチェーン接続することができます。一般的なシステムで1ゾーンのオーディオを使用する場合、アンプから最も近いスピーカーにステレオまたは4芯のスピーカー・ワイヤーを接続するだけです。

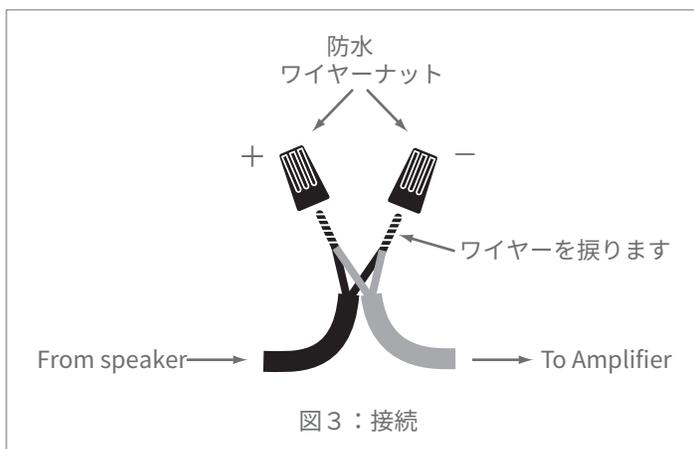
最初のスピーカーをLRどちらかに指定し、適切なプラスとマイナスのワイヤーをスピーカーターミナルに接続します。

各スピーカーのLRのチャンネルを交互に接続し、ステレオ・サテライトのデジチェーンを作ります。

サブウーファースはチェーンのどこにでも配線でき、LまたはRのスピーカー・ワイヤーを受け取ります。

図3をご参照ください。

1. 他のスピーカーを補完する最適な場所を探します。
2. サブウーファースをどのチャンネルに置くかを決め、負荷を計算します。
3. 付属のワイヤーナットを使ってアンプの配線に接続します。



注：抵抗線のロスを最小限に抑えるため、配線はできるだけ短くしてください。

注意：スピーカーの配線がすべて完了するまで、アンプを交流電源に接続しないでください。
70Vのハイパワーアンプは、深刻な感電の危険があります。

4. スピーカー配線を通すために、4インチから5インチの深さの溝を掘ります。
5. アンプから最初のスピーカー位置まで、溝を通してワイヤーを通し、最初のスピーカーの位置まで配線します。
6. 接続には、ワイヤーコネクタか、適切なジャンクションボックスを使用します。図2をご参照ください。

注意：「+」と「-」の素線同士が接触するとショートし、アンプを損傷する恐れがあります。

7. すべてのスピーカーの接続が完了したら、ワイヤーをアンプに接続します。図3をご参照ください。
8. アンプの電源を入れ、お好みの音楽でシステムをテストします。
スピーカーが正常に動作していれば、通線溝を埋めて新しいシステムをお楽しみください。

